

かざね 四万十の風音

しんせん 森&川だより



「松野東小学校で年間を通じた森林環境教育（第1回）を実施」



松野町立松野東小学校の三・四年生（三年生5名、四年生5名の計10名）は、「総合的な学習の時間」を利用して今年度4回程度継続して森林環境教育を実施することになり、その第1回目として7月2日に「校庭の樹木学習」を実施しました。

最初に教室で樹木を観察するポイントや樹木の葉を見せて、その形状や広葉樹・針葉樹の特徴について簡単に説明しました。

次に、校庭に出てモミヤクスノキなど樹木の幹や枝葉に触れさせ、木の肌の感触や葉の匂いを嗅がせるなど体感を通して33種の樹木について、名前の由来や特徴等について説明しました。児童達は種子を探したり、ネイチャーゲームの「木漏れ日キャッチ」や「葉っぱの窓」を行い、画用紙に写る枝葉の木漏れ日の影を楽しんだり、窓枠の用紙に貼った葉っぱを太陽に透かして葉脈の美しさを観察するなどの学習をしました。

その後、教室に戻って樹木名板の製作に取りかかり、ヒノキの板に、ポスターカラーで科名と和名を書き、余白には思い思いにイラストを描いて完成させ、樹木にシュロ縄を使って取り付けました。

最後に児童より、「木の名前をたくさん知れて良かった。」「葉っぱの違いや特徴が学べてすごく勉強になった。」などの感想がありました。

今回、身近な校庭の樹木について学習したことで、自分たちの暮らしと深い関わりのある樹木の役割を知ってもらい、興味を持ってもらえたと思います。

これから、空飛ぶ種子や木工クラフト、炭焼き体験などを通して森林や自然への理解を少しずつ深めて行ってもらいたいと考えています。





樹木を観察するポイント等の説明



校庭の樹木学習の様子



樹木名板製作の様子



樹木名板完成したよ

「松野西小学校で年間を通じた森林環境教育 (第1回～第4回)を実施



愛媛県松野町立松野西小学校の四年生（児童21名）は、平成19年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度6回程度継続して森林環境教育を実施しており、今年度も支援要請を受け実施することになりました。

その第1回目として、6月25日に「校庭の樹木学習」を実施しました。

まず教室で校庭の樹木を観察するポイント等について簡単に説明し、校庭に出てクロガネモチやクスノキなど樹木の幹や枝葉に触れさせ、木の肌の感触や葉の匂いを嗅がせるなど体感を通して32種の樹木について、名前の由来や特徴等について説明しました。第1回目の終わりに児童の代表から、「これからの森林学習がとても楽しみです。」等の感想がありました。

第2回目は7月3日に「森林の働きと水はどこから水のゆくえ」と題して四・五年生の社会科に関連付けて実施し、水をはぐくむ森林の大切な働きについて説明しました。

次に、樹木名板の製作に移り、ヒノキの板にポスターカラーで科名と和名を書き、余白には思い思いのイラストを描いて完成させました。

なお、宇和島のケーブルテレビが取材に来て、第1回目と第2回目の活動の様子を撮影され、後日、放映されました。

第3回目は7月17日に「木工クラフト学習」を実施しました。

最初に、材料として使用する木材は、古くから私たち日本人の生活になくはない存在で、木材には優れた性質があり暮らしを快適にしてくれる素晴らしいものですが、使いづらい点も持っているので上手な工夫をして色々な材料や原料として木材を使っていることを説明しました。

次に、木工クラフトに移り、作り方や注意点を説明した後、児童達が山川海で繋がっている生き物の壁掛け(自由製作)作りに挑戦しました。ヒノキの板にコルクの木枠、カブトムシ、クワガタムシ、カニなどの木片の各パーツを選び、また、動眼(動く目玉)、小枝等を自由に選んで、ボンドで工夫しながら貼り付け、作品を完成させました。

第4回目は7月22日に、長雨のため延期となっていた「校庭の樹木学習」の続きです。学校正門近くの通学路にあるシュロについて説明してから、校庭の樹木にシュロ縄を使って樹木名板を設置しました。

次回は2学期です。これらの年間活動を通して、森林や自然の大切さ、木材利用についての理解を少しずつ深めて行ってもらいたいと考えています。



校庭の樹木学習の様子



樹木名板製作の様子



座学の様子



完成した樹木名板



木工クラフト製作の様子



木工クラフト製作の様子



樹木名板の立て札を設置中



木漏れ日キャッチの様子



いろいろできたよ



『竹島小学校と藤岡小学校の放課後教室児童を
対象として、夏休み森林・木工教室を開催』



8月4日に四万十市立^{たけしま}竹島小学校の放課後教室児童20名、8月6日に四万十市立^{わらびおか}藤岡小学校の放課後教室児童15名を対象にした森林・木工教室を地区の集会所で開催しました。

最初に、森林の働きについて、「森林はまるで大きなスポンジのように水をためるダムのような働きをし、川の水量の調節をして災害を防いだりするほか、海岸付近では防風・防砂などといった様々な働きをしています。木は二酸化炭素を吸って酸素を出しているの、森林には空気をきれいにする空気清浄機の働きや、美しい自然環境を保って、生き物のすみかとなっています。私たちに保健休養の場を与えてくれ、心身のリフレッシュにも役立っています。森林から生産される木材は、家を建てる時の主な材料として使われたり、私たちの暮らしに欠かせないトイレットペーパーなどの原料となります。その他にもいっぱい大切な働きをして私たちの暮らしを守って豊かなものにしてきています。」など説明しました。

次はお楽しみの木工クラフト(山川海で繋がっている生き物の壁掛け)作りです。作り方を説明した後、見本を参考に自由製作としました。スギやヒノキの板にポスターカラーでイラストを描いたり、コルクやヒメシャラなどの木杣、カブトムシ、クワガタムシ、フクロウ、カニなどの木片の各パーツを選び、また、動眼(動く目玉)、小枝等を自由に選んで、ボンドで工夫しながら貼り付け、思い思いの作品を完成させました。

最後に、児童より、「いろいろ選べる物があって、とっても楽しく夏休みの工作ができました。」「スギやヒノキの板からはとてもいい香りがしました。」などの感想とお礼の挨拶がありました。

今回の森林環境教育を通して子ども達には、森林の大切さを知ってもらい、木材に親しんでもらえたと思います。



竹島小学校、座学の様子



竹島小学校、木工クラフト製作中



蕨岡小学校、木工クラフト製作中



蕨岡小学校、木工クラフト製作中

すご～いのできたよ



「黒尊山広葉樹植栽地の下刈を実施」



当センターでは自然再生事業の取り組みとして、平成25年11月に四万十森林管理署管内の黒尊溪谷親水公園周辺の自然再生を行うために、四万十川地域住民を代表する組織「しまんと黒尊むら」の地元住民と協働で、親水公園に隣接する黒尊山国有林9林班に、ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキ、コナラ、クヌギ等広葉樹の植栽とシカ防護ネット300mを設置しているところです。夏場、植栽地の雑草の繁茂が著しく生育を阻害していることから、6月26日と7月8日にシカ防護ネット柵のメンテナンスとあわせて職員実行で下刈作業を実施しました。

今後も植栽木の生育状況により保育作業を実施していきたいと考えています。





「当センターのニホンジカ被害対策の取組」

高知県と愛媛県の県境に位置する滑床山^{なめとこやま}国有林周辺は、足摺宇和海^{あしずりうわかい}国立公園に指定される等、非常に重要な地域です。しかし、平成12年度頃からニホンジカによる食害によってミヤコザサ等の植生が消失・裸地化した状況が山頂の三本杭^{さんぼんぐい}（1, 226m）や周辺のたるみなどで確認されていきました。当センターでは植生を回復させるため、平成18年度からボランティア等の協力を得てシカ防護ネット柵を設置し、ミヤコザサの移植を行い、定期的にシカ防護ネット柵設置箇所の巡視及び保守・点検等を実施することにより植生回復に取り組んでいます。

設置しているシカ防護ネット柵はニホンジカの侵入を防ぎ、平成19年3月に三本杭山頂やたるみに移植したミヤコザサや他の草木が生長し、植生が順調に回復しています。

三本杭周辺や八面山周辺の吊り尾根や斜面のギャップにも毎年度シカ防護ネット柵を新設してきており、令和元年度末でその総面積は約8.4ヘクタール、総延長で約5千2百メートルとなっています。

シカ防護ネット柵の総延長が延びるに連れ、台風や強風等によるネットへの倒木や積雪による雪の重みで支柱が折れ、ニホンジカが防護ネット柵に侵入して回復途上の植生を食害することがあることから、点検・補修（メンテナンス）作業が欠かせなくなっています。

このため、今年度も定期的にシカ防護ネット柵の点検・補修を行い、ニホンジカ被害対策に取り組んでいきます。

三本杭周辺でシカ防護ネット柵の点検・補修



シカ防護ネット柵の外側と内側の比較写真



※シカ防護ネットの外側はシカがミヤコザサを捕食したり踏み荒らしたりしていますが、防護ネットの内側は^{あおあお}青々としています。

「当センターの八面山登山道の維持管理」

当センターの森林体験学習の主要なフィールドは、愛媛県側の登山口から黒尊・滑床エリアの八面山（1,165m）を經由しブナ林までの1.5kmを往復するコースで、宇和島や九州までも一望でき、石鎚山などの山々も望める大変眺望の良いコースとなっています。

体験フィールド内の、滑床山国有林2067林班に小班（愛媛森林管理署管内）は、ブナ、ミズメ、カエデ類からなる約2百年の天然生林で、足摺宇和海国立公園（滑床地区）第2種特別地域に指定されています。

毎年度幾つかの学校からの要請を受けて児童生徒を八面山や吊り尾根のブナ林に案内して森林体験学習を行ったり、吊り尾根周辺の植生をシカの食害から守るため設置しているシカ防護ネット柵の点検・補修を定期的に行っています。また、県内外から登山等で訪れる方も四季を通じて多くいることなどから、登山道に倒れている倒木等の処理や草の刈払を年間数回実施しています。

今年もこの夏、草刈を実施して、歩行時の転倒や歩道の踏み外しを防ぎ、歩きやすい登山道の維持管理に努めています。



八面山登山道の維持管理



「大自然の中で見つけたよ、その①」

ホオノキとトチノキは図鑑等で確認してね(^.^)



どっち（左右）の木がホオノキ？

『大自然の中で見つけたよ、その②』



コジュケイの親子



トンボの羽化



蝉の羽化



二ホンジカ



農林水産省 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

